

J A P O S

日本公開天文台協会回報

JAPOS: Japan Public Observatory Society Circular
Number 10 (2010.1.13号)

目次

滋賀県での博物館・ボランティアの人たちとの連携による部分日食観望会 (高橋 進) 1

滋賀県での博物館・ボランティアの人たちとの連携による部分日食観望会

ダイニックアストロパーク天究館 高橋 進

2009年7月22日の部分日食はこれまでの日食とは比べ物にならないほど市民の皆さんの関心の高い日食でした。マスコミではトカラ列島など皆既日食になる地域の情報とともに国内各地での部分日食の情報もこれまでになく早い時期から流されました。またそれとともに日食により目を傷める危険についてもこれまでにないほど報道されました。

そうした情報を受けて天究館などにも5月ころからどうやって見ればいいのかという問い合わせが相次ぎました。これまでならとりあえず感光したフィルムを使ってなどと言っていたのですが、デジタルカメラが普及したこの時代ではなかなか通じません。しかも今回はとりあえず減光しているように思えても赤外線によって目を傷めるとの指摘もあり、本格的な日食サングラスを使ってもらわざるを得ない状況になりました。安くて大量のサングラスを作る方法として天文ハウス TOMITA からバーダープラネタリウム社のソーラーフィルターをラミネートしたサングラスの作成方法を聞き、これを利用することにしました。これを多くの市民の皆さんに使ってもらおうと思い、ショッピングセンター「ビバシティ彦根」に声をかけたところ、日食サングラス教室に会場を提供していただけることになりました。しかも参加費無料で材料代もショッピングセンターで負担してあげましょうと言ってくれました。そこで7月20日の午前と午後に児童各先着100名ずつの日食サングラス教室を開いたのですが、開店前から行列ができる騒ぎになり結局さらに100名分を追加して対応することになりました。児童の付き添いで来られた保護者も含めると全部で600名以上の日食教室になりました。それ以外にも天究館での日食教室に加えいくつかの学校でも日食教室を開催し、それぞれにサングラス工作を行うことになりました。ひとつの天文現象でこれほどの教室を開いたのは今回が初めてのことでした。

滋賀県では一昨年より毎年夏休みの初めに理科系博物館が集まって「博物館による環境と科学の祭典」を行なっ



ており、普段から学芸員同士で連絡を取り合っていますが、各博物館にも日食の問い合わせはかなり来ているようで、どう対応したらいいのかと天究館に問い合わせられていました。ビバシティ彦根から多めにフィルターを提供していただいたので、10館の博物館に数十枚ずつのサングラスを配布しそれぞれに観望会を実施していただくことになりました。今回の日食はこうした博物館連携という意味でもこれまでにない成果をもたらしてくれた天文現象といえました。

多賀町には叶・多賀門という石のモニュメントがあります(写真)。石刻画家の山田光造氏によるもので二つの石が合わさったアーチとその奥にある石からできています。石のアーチをくぐってその奥の石にお札を貼れば願い事が叶うというものです。この二つの石のすきまを通る太陽光が木漏れ日のように地面に日食像を映し出すのではということで、多賀町観光協会にここで日食の木漏れ日の観望会をしてもらうことにしました。もちろんそこでは、「太陽と月が重なり合う日食のときに、二人仲良く多賀門をくぐり願い事のお札を貼れば二人の願いはきっと叶うことでしょう」がうたい文句です。とはいっても当日は私は天究館の観望会がありますから多賀門にいることはできません。急きょ観光協会のスタッフに日食の説明をして、来られた皆さんに日食と木漏れ日の話をしてもらうことにしました。

そして天究館でもボランティアの人たちと日食観望会です。9時半からの観望会ですが、朝の6時半ころからお客さんは集まってこられました。日食が始まるころにはおよそ700人の人たちが来られ、一家族に1枚の日食サングラスでそれぞれに見ていただくことにしました。当然のことながら駐車場はあふれかえり延々と路上駐車之列ができてしまいましたが、多賀町教育委員会の皆さんや地元の婦人会の皆さんの協力で大きな混乱もなく観望会を進めることができました。

雲間からの日食観察のため残念ながら多賀門の木漏れ日は実際には見られませんでした。今回の日食は多くの皆さんに様々な形で関わっていただくことができ、画期的な日食だったのではと感じています。また一方で日食の影響力の強さのすごさもつくづく感じさせられました。この教訓を生かして2012年の金環食ではさらに多くの皆さんとこの天文ショーを楽しんでいきたいと思えます。



編集後記&原稿募集

皆様、新年おめでとうございます。

世界天文年 2009 が幕を閉じ、史上初の元日月食と共に新たな年の始まりとなりました。皆様におかれましても世界天文年での経験をバネに、さらにご活躍されることとお慶び申し上げます。

さて、昨年は回報発行の新体系がスタートしました。皆様のご協力もあり、既刊の回報第7号～第9号は「2009年JAPOS全国大会(@さジアストロパーク)集録」に掲載されます。本号(回報第10号)以降おおむね秋ごろまでの回報については、来年度全国大会集録に掲載予定です。

皆様の投稿はこのように印刷物として残ります。観測研究はもちろんのこと、身近な話題や情報、事例などお気軽に投稿してください。回報第11号は、皆さまからの投稿があり次第の発行となります。世界天文年を振り返った報告、事例といった投稿を特にお待ちしています。

尚、原稿の募集に際しては、編集委員会から寄稿のご依頼をすることもあるかもしれません。その際には是非、ご協力いただければ幸甚です。

本年もよろしくお願いたします。

記事投稿先

fukuzumi@yacht.ocn.ne.jp (写真貼り付けなどで1Mbを超える場合は左記宛別途ご相談下さい。)

編集委員

編集委員長：福澄孝博、編集委員：船越浩海(編集委員募集中!)
